

# 割りばしで エコ味わう

奈良県・吉野産のヒノキの割りばしが、コンビニ弁当用などとして11月末に登場する。吉野地域の木製品卸業「内原商店」（奈良県下市町）など4社でつくる「吉野の地域産業を発展させる会」の呼びかけにローソン（東京都）が賛同。間伐材で作る国産割りばしの利用促進が山の手入れにつながるとして、「割りばしでエコ」を広める計画だ。

## ナチュラルローソン



ナチュラルローソンの  
割りばしの試作品

吉野産木材は高級ブランド材として知られるが、木材価格の低下などで苦境に立たされている。吉野ヒノキの素材価格は全国平均の約1・5倍するが、育成に約100年かかり、間伐材で作る障子などが貴重な収入源。しかし、住宅の洋風化

## 来月末 登場 吉野ヒノキ間伐材利用

計画では、割りばしを首都圏の「ナチュラルローソン」82店舗で同会にとっても初の【泉谷由梨子】

などで需要が減少し、荒廃や林業の担い手の減少を招くなど、割りばしが「最後の砦」という。

試みて、ローソン以外  
の飲食店も含め、年間  
計1000万ゼンの出  
荷を予定。内原商店の  
内原弘嗣社長は「吉野  
ヒノキの値打ちを高  
め、産地を活性化し、  
袋の表面に広告を入れ  
て補う。」



放置されたままになっている間伐材―奈良県黒滝村で